



日本プライマリ・ケア連合学会
四国ブロック支部



発行人：阿波谷,大原,板東,川本,澤田
事務局 〒761-2103
香川県綾歌郡綾川町陶 1720-1
綾川町国民健康保険陶病院気付
副支部長/事務局長 大原昌樹・土肥宛
Tel. 087-876-1185 Fax. 087-876-3795
E-mail oharamasaki@gmail.com

★1 「学会開催のレガシー（遺産）」

美波町国民健康保険美波病院（徳島） 本田 壮一

22年11月に、第22回日本プライマリ・ケア連合学会四国ブロック支部大会（以下、22回PC四国と略す）を開催した。その後の徳島のプライマリ・ケアのトピックスを紹介する。

1) 「阿波の名医展」鼎談

徳島大学の2年先輩になる板東浩先生（県支部長）は、「阿波の名医～歴史を築いた先人たち」を出版した¹⁾。本ニュースレターNo. 39で紹介した、ガレリア新蔵（徳島大学本部）の第32回企画展「阿波の名医」は、昨年10月からさる2月28日までのロングランで開催された（**図1**）。土・日曜・祝日も開館（9時から17時まで）しており、3回ほど訪ね理解を深めた²⁾。江戸時代から明治・大正・昭和と活躍した先達の年表や著書などが展示されていた。アインシュタイン（物理学）と交流のあった三宅速（・はやり）のコーナーが充実していた。



図1：第32回企画展「阿波の名医」

12月18日（日曜）には、関連の催しとして、「鼎談：三宅速」が開催された。Zoom配信で視聴した。座長は、福井清副学長（徳島大学）。イスラエルの工科大学と学术交流しており、アインシュタインに関連のある大学とのこと。

まず、九州大学の出身の島田光生教授（消化器・移植**外科学**）。故田北周平先生など九大と徳島大学は縁がある。速は、島田先生が育成している academic surgeon の草分けで、引導を渡せる医者になることは目標であると。次に、永廣信治先生（吉野川病院）。脳外科医であるが、速の親戚の役割や、CTのない時代に脳外科手術を成功させた速の功績をたたえた。3人目は、笠原二郎先生（薬学部・神経病態解析学）。祖父が速の次の赤岩八郎教授（小松島市立江の出身）の門下生になるとのこと。貴重な写真や、祖母も交流があったことを紹介された。



図2：鼎談：福井・島田・永廣・笠原の各先生（ウェブ）

その後、鼎談となり（**図2**）、速の人物像がより身近になった。医学史を学ぶことを、板東先生と共通の恩師の故齋藤史郎元学長が述懐されていたことを思いだした。

2) 谷憲治先生の最終講義

徳島大学の1年先輩の谷憲治先生（徳島大学病院総合診療部）が、23年3月に定年退任を迎える。3月7日（火曜）に、藤井節郎記念ホールで最終講義が開催された。タイトルは「点から線 そして面へ（専門医療～米国・モンゴル～地域医療）、A case of Dr. TANI」（**図3**）。間質性肺炎を中心に診療し呼吸器内科医に、**米**国へ留学（NIH 柔道クラブにても活躍）。帰国後は、RAなどの膠原病内科へ。そして、徳島県の寄附講座の地域医療・総合診療医学分野³⁾の特任教授を務められている。



図3：最終講義の谷憲治教授

県立三好病院勤務の3年間も有意義だったとのことで、与えられた場所での活躍が重要という言葉に感銘を受けた。また、柔道が縁でモンゴルからの留学生と共同研究を行い、その後の徳島大学とモンゴル国立医科大学との交流につながったという⁴⁾。

医学部での地域医療の教育や、海部郡でのクリニカルクラークシップ実習の構築に尽力された。私も、臨床教授(地域医療学)を拝命しその現地教育を受け持っており、学生との阿波踊り「地医輝連」(図4)に参加し、地域医療教育研究会で学ばせていただいた。この数年間は、コロナ禍のため、現地での学生実習は中止となっていたが、2月から再開された。さる11月の22回四国PCでは、教育講演(白石吉彦先生)の座長に加え、教室の大倉・河南両先生らの支援をいただき感謝している。4月から東洋病院(徳島市)に勤務と聞き、今後ご指導をいただけるもの期待している。長年の徳島大学のご勤務、お疲れ様でした。



図4: 本田・神田・谷各先生
(藍場浜演舞場, 2014年)

3) へき地医療表彰

全国自治体病院協議会⁵⁾は、15年以上にわたって山村・離島など医療に恵まれないへき地の地域医療確保に献身的に尽くしている医師を、1981年から「へき地医療貢献者」として表彰している。第42回目となる2022年度には、榎原茂(勝浦病院)・依田啓司(県立三好病院)両先生と、17年を超える勤務となった筆者が表彰された(図5、全国で21名)。



図5: 影治信良町長と
本田(於 美波病院)

四国支部からは、大原昌樹副会長(香川、21年度)や白川光雄(徳島)・村上晃司(愛媛)の両先生などが受賞されている。同協議会の「全国自治体病院雑誌1月号」には、受賞の手記⁶⁾とともに、その表紙(図6)を美波病院が飾った(迫りくる南海トラフ地震・津波に備え免震建物として新築された美波病院は、3月から8年目に入る。少人数で心の通う多職種連携を行い、with COVID-19の地域医療を邁進する)。

地域の病院で長年勤務する上で、本学会や徳島医学会などの学会活動での刺激があったことが大きく感謝している。



図6: 23年1月号の表紙

4) 第14回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会(愛知県)

日本プライマリ・ケア連合学会の年次学術大会は毎年、各地で開催されてきた。第14回大会が愛知県の豊田市およびポートメッセなごやで2023年5月12日(金曜)~14日(日曜)に開催される⁷⁾。大会長は大杉泰弘先生(藤田医科大学 連携地域医療学 准教授)であり、テーマは「プライマリ・ケアの卓越性と次世代医療の融合」である。

活動報告として、「22回四国ブロック支部地方会は盛会となった」の題目でポスター発表の予定である(13日(土曜)10時15分から11時45分のセッション、図7)。



図7: 第14回学術大会のスタッフの皆様

p112	22回四国ブロック支部地方会は盛会となった
氏名	○本田壮一 ^{1,2)} , 藤原真治 ^{2,3)} , 河南真吾 ^{2,4,5)} , 大倉佳宏 ^{2,5,6)} , 山口治隆 ^{2,5,6)} , 白川光雄 ^{2,7)} , 谷憲治 ^{2,5,6)} , 板東浩 ²⁾
所属	1) 美波町国民健康保険美波病院 内科, 2) 日本プライマリ・ケア連合学会 徳島県支部 3) 美馬市国民健康保険木屋平診療所, 4) JA 徳島厚生連吉野川医療センター 総合診療科 5) 徳島大学大学院 総合診療医学分野, 6) 徳島大学病院 総合診療部, 7) 海陽町穴喰診療所
本文	【目的】私どもは、第13回学術大会に「四国で学び、四国の未来に寄りそうプライマリ・ケア（徳島県支部のあゆみ）」と題するポスター（活動報告）を発表した。2022年11月に徳島市医師会館とオンラインで、第22回四国ブロック支部地方会を開催し盛況となったので報告する。【方法】1年間の準備や、当日の運営についてまとめた。【結果】1) 会期は22年11月19日（土曜）、20日（日曜）の2日間。会場44名、オンライン79名（併用7名）、計116名の参加が得られた。2) 一般演題は18題。徳島県内に加え、香川・高知が3題ずつ、愛媛から7題、岡山県からも1題の発表があった。会員医師だけでなく、看護師や研修医・学生から発表いただいた。3) 草場鉄舟理事長や斎藤義郎徳島県医師会会長が、会場に来られご挨拶をされた。4) 「徳島県南部でのプライマリ・ケアの実践」と題して大会長講演を行った。5) 「頻発する災害とプライマリ・ケア～地震・津波、COVID-19、そして～」と題したシンポジウムを行った。4名の会員が登壇し、ランサムウェア・ウイルス被害までの議論を行った。6) Zoomを用いた交流会を行い、会員間での久闊を叙した。7) ポートフォリオ発表会で議論を行い、作成の方法を学んだ。8) 白石吉彦先生（島根大学）による「徳島から隠岐へ、そして総合診療医育成の道へ」と題した教育講演を行った。9) 早朝ウォーキングや、旧徳島城の日本庭園の散策を企画した。10) 地域医療振興協会の支援をいただき、スムーズなオンライン配信が行えた。【結論】四国4県は交通の便が悪く、移動に時間がかかるため、ウェブ開催と併用は有用であった。ブロック支部地方会の開催マニュアルが作成されており、参考とした。今回開催のノウハウを、第23回支部会（高松市）に申し送るとともに、「四国で学び、日本の未来に寄りそうプライマリ・ケア」をさらに深化させたい。

日本プライマリ・ケア連合学会の全国大会が開催される際には、**四国**地方会でプライマリ・ケアを学び展開させていく姿（**図8**）や現状を報告していき、これからもさらに、四国支部の活動が盛り上がるように尽力していきたいと思う。

結びに、改めて、22回PC四国に現地やオンラインに参加いただいた会員や徳島県医師会の諸先生、発表者や準備運営に協力いただいた委員の諸先生、新鞍誠先生ら地域医療振興協会の皆様に、感謝する。



図8：徳島県医師会館(22年11月)

【参考】

- 1) 板東浩：阿波の名医～歴史を築いた先人たち。ステラ・メディックス, 東京, 2022
- 2) 本田：うさぎ年に「阿波の名医」を偲ぶ。徳島県医師会報, No. 620, p64, 2023年1月号
- 3) 徳島大学大学院 総合診療医学分野 ⇒<http://www.tiiki.umin.jp/>
- 4) 西岡安彦：医学部の国際交流。徳島大学医学部だより。45, p1, 2022.10.1
⇒https://www.tokushima-u.ac.jp/fs/4/0/1/4/0/2/_/igakubudayori_45.pdf
- 5) 全国自治体病院協議会 ⇒<https://www.jmha.or.jp/jmha/>
- 6) 本田：へき地医療の今とこれから～徳島医学会の演題をふりかえる～（令和4年度へき地医療貢献者表彰を受賞して。全国自治体病院協議会雑誌, 62(1), p50-52, 2023年1月
- 7) 第14回 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 **2023**
⇒<https://jpca2023.org/>

★2 第23回日本プライマリ・ケア連合学会四国地方会

第30回四国地域医学研究会 第3回かがわ総合診療研究会 合同学術集会のご案内

大会長：三豊総合病院 中津守人

第23回日本プライマリ・ケア連合学会四国地方会を香川県担当で、本年11月に香川県高松市において開催させていただきます。従来の四国地域医学研究会とともに、本年3月に発足した「かがわ総合診療研究会」との合同開催となります。

人口の減少と高齢化、単身世帯の増加、老老介護などが益々大きな社会問題となってきています。プライマリ・ケア医として、医療を提供するだけではなく、その人の生活そのものを支えることが必要な事例も増えています。また、コロナ禍で、地域の中での人と人との繋がりも希薄になってきています。そのような中で、住民が、自分らしく、安心して生活できるため、医療や介護によるサービスだけではなく、インフォーマルなサービスなども含め、地域づくりが重要となってきていると考えます。そこで、今回、『after コロナ、with コロナ時代のプライマリ・ケア』～地域に寄り添うプライマリ・ケア医を目指して～をテーマにしました。

初日は、一般演題、特別講演の後、「地域に寄り添うプライマリ・ケア医を目指して」をテーマにシンポジウムを開催したいと考えています。各県から1人、シンポジストをお願いし、プライマリ・ケア医としての地域での実践、プライマリ・ケア医の育成などについてご発表いただければと考えています。2日目は、例年どおり、ポートフォリオ発表会を開催し、その後、一般演題の発表、特別講演を行う予定です。交流会については、コロナの感染状況をみて開催を判断する予定ですが、できれば、以前のように会員の皆様と顔と顔を合わせ、お酒を飲み交わしながら懇親会が開催できればと考えています。

多数の皆様のご参加を、準備委員一同、心からお待ち申し上げます。

【開催日程】 令和5年11月11日(土) 13:00～18:30

令和5年11月12日(日) 8:30～12:30

【会場】 香川県立中央病院 1階講堂 (香川県高松市朝日町一丁目2番1号)

★3 「1st Sanuki GM conference 開催されました」

かがわ総合診療研究会 会長 高口浩一

2023年3月11日土曜日にかがわ総合診療研究会(会長：香川県立中央病院 高口浩一院長)主催の1st Sanuki GM conferenceがハイブリッド形式にて行われました。香川県医師会と香川県の後援もいただき、香川県医師会会長の久米川啓先生のご挨拶をいただいた後、ケースカンファレンス2題と特別講演1題で開催されました。

参加者は、会場約30名、Web約15名の参加があり、香川大学医学部の学生さんや来年度香川県で総合診療専攻医となる初期臨床研修医の先生方にもお集まりいただきました。ケースカンファレンスでは活発な討論ができ、大変皆さん満足されたものと思います。

また、特別講演では、水谷内科クリニック副院長のCOLBIN真梨子先生に「総合診療医を目指す医師、医学生へ」という演題でご講演いただきました。イギリスの医学部の学生生活や教育について、また医師になってからの日本との研修方法の違いについてお話しいただき、イギリスと日本で総合診療や内科診療の教育を

1st Sanuki GM Conference
主催 かがわ総合診療研究会 後援 香川県医師会、香川県

謹啓
時下、先生方におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。
この度、下記要領にて研修会を開催させていただきます。
会場での開催に加えてWeb配信を併用いたしますので、万障お繰り合わせの上、ご参加賜りますようお願い申し上げます。 謹白

日時 ▶▶ 2023年3月11日(土) 15:00～17:00

**会場 ▶▶ 香川県立中央病院 1階 講堂
高松市朝日町1-2-1 TEL: 087-811-3333
※Web参加 (Zoom) も可能です。申し込み時にメールアドレスを記入してください。**

開会挨拶 15:00～15:05 久米川 啓 先生 香川県医師会長

Case conference 1 15:05～15:30

座長 ▶▶ 山本 智美 先生 香川県立中央病院 ヘリ地域医療支援センター 総合診療科 医長

十二指腸穿孔孔術直後の発熱と皮疹で紹介された一例

演者 ▶▶ 西山 将 先生 香川県立中央病院 総合診療科

Case conference 2 15:30～15:55

座長 ▶▶ 泉川 孝一 先生 香川県立中央病院 総合診療科 部長

皮膚生検が診断の決め手となった不明熱の一例

演者 ▶▶ 丸井 康平 先生 香川県立中央病院 臨床研修センター

特別講演 16:00～17:00

座長 ▶▶ 高口 浩一 先生 香川県立中央病院 院長 総合診療科 診療科長

「総合診療医を目指す医師、医学生へ」

演者 ▶▶ COLBIN 真梨子 先生 水谷内科クリニック 副院長

受けたことで現在の自分があるとお話をされ、総合診療科の面白さを学生さんにもわかる様にお話ししていただき学生さんや参集された医師の方にも大変興味をもって聴講していただきました。

今後、年4回程度、このようなカンファレンスを開催する予定です。できるだけハイブリッド開催を考えておりますので、日本プライマリ・ケア連合学会四国ブロック支部の皆様にも案内させていただきたいと存じます。ぜひともご参加いただき、どんどん質問やご指導をいただければ幸いです。



★4 PC医学と心身医学は共通のフィロソフィー

徳島県PC研究会・四国MT研究会(徳島)板東浩

プライマリ・ケア医学は全人的医療(holistic medicine)であり、生物学的・心理的・社会的(bio-psycho-social)という3つ側面を重要視しています。その方向性は患者指向型医療(patient-oriented medicine)であり、心身医療(psychosomatic medicine)などと共通するフィロソフィーを有しています。今まで、日本PC連合学会の大会やシンポジウムなどで、しばしば日本心身医学会と協調し、合同企画を行って参りました。筆者はこれらと関連する統合医療や聖路加国際病院の日野原重明先生によるHinohara-ismに関わって参りました。

最近のニュースとして、2023年3月、日本心理医療諸学会連合(UPM)第34回大会が開催されました。UPMとはJapanese Union of Associations for PsychoMedical Therapyの略で、心身医療及び心理学的援助を研究する諸学会の連合体として1987年に設立され、15学会で構成されています。このように、さまざまな有機的な協力連携による心身医学の展開が注目されています。

このたび、日本心身医学会・第45回中国四国学術大会が、2023年10月29日(日)に徳島駅近くのグランドパレス徳島で開催されます。テーマは「心身医学と医療・文化との関わり」で、筆者がお世話を担当させて頂くことになりました。

この中には、芸術文化に関わる内容も含まれており、徳島大学総合科学部の田中佳先生から、「ホスピタルアートの哲学と実践」についてご講演をいただきます。筆者は心身医療や音楽療法、PC医学、Hinohara-ismなどについて述べたいと存じます。

また、今回の大会では従来にない幅広い各界の方々からの関与を企画しております。徳島大学社会産業理工学部 宇都義浩教授に、全体の実行委員会のマネジメントをお願いさせて頂きました。2023年秋には、プライマリ・ケア医学や心身医学、全人的医療、徳島大学、徳島県の発展に多少ともお役にたてるように現在、準備を進めているところです。みなさま方からのご理解ご協力を、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

第45回 日本心身医学会 中国・四国地方会

テーマ:心身医学と医療・文化との関わり

会期:2023年10月29日(日)
10:00~17:00

会場:ホテルグランドパレス徳島
(088-626-1111, <https://www.gphotel.jp>)
(JR徳島駅から徒歩3分)

大会長:板東浩
(四国MT研究会代表、徳島大学)

- ・特別講演
- ・大会長講演
- ・教育講演
- ・教育セミナー
- ・一般演題などを予定

一般社団法人
日本心身医学会
Japanese Society of Psychosomatic Medicine

